

一般社団法人日本老年歯科医学会 2021 年度第 14 回理事会議事録

日時：2022 年 3 月 8 日（火） 18 時 30 分～21 時 30 分

Web 開催

出席者

水口俊介，羽村章，片倉朗，上田貴之，池邊一典，小野高裕，山崎裕，小笠原正，菊谷武，戸原玄，佐藤裕二，吉田光由，松尾浩一郎，河相安彦，竹島浩，大神浩一郎，石黒幸枝，柏崎晴彦，高橋一也，岩佐康行，平野浩彦，弘中祥司，米山武義，服部佳功，阪口英夫，糸田昌隆，菅武雄，大野友久，會田英紀，渡邊裕 各理事（30 名）

山根源之，森戸光彦 各監事（2 名）

鈴木啓之，竜正大，高橋利士，堀一浩，佐川敬一郎，吉見佳那子，太田緑，高橋賢晃，大久保真衣，小原由紀，川本章代，若杉葉子，森田一彦，遠藤眞美，田中恭恵，貴島真佐子 各幹事（16 名）

櫻井薫，山根瞳 各名誉会員（2 名）

欠席者

岡田和隆，古屋純一、中根綾子，伊藤誠康，田村暢章，山添淳一，石川健太郎，赤松那保，尾崎研一郎 幹事（9 名）

I. 開会の辞 羽村 副理事長

羽村副理事長より，開会の辞が述べられた。

II. 理事長挨拶

水口理事長より，多くの協議事項があるが，時間を守りつつ慎重に審議を行っていくことが伝えられた。

III. 議長選出 水口 理事長

定款第 32 条に従い，水口理事長が議長として選出された。

IV. 確認事項 上田理事

1. 定足数の確認〔定款第 32 条、理事現在数（30 名）の 2 分の 1 以上の出席〕
上田総務より、定款第 32 条、理事現在数（30 名）の 2 分の 1 以上の 25 名（遅参 5 名）の出席があり、定足数を満たしていることが報告された。
2. 2021 年度第 11~13 回理事会 議事録
水口理事長より、以下の通り議事録が確定したことが報告された。
<https://www.gerodontology.jp/committee/chairman/>

V. 協議事項 /重要な報告含む

1. 来年度委員会構成について

病院歯科委員会が新設（特任委員会（病院歯科）を常設化）

認知症に関する委員会を「特任委員会（認知症）」として設置

国際渉外委員会と学会間連携委員会を渉外委員会と組織改編、名称変更

支部・地域保健医療福祉委員会の業務を一部分離し、支部組織委員会に名称変更および業務内容の変更

地域保健医療福祉部分は多職種連携委員会に移管し、地域包括ケア委員会の名称変更と業務内容の変更

- ・水口理事長より、資料の通り、来年度の委員会構成（総会后）について説明がなされ、承認された。
- ・上田理事より、補足として委員会数の変更はない旨が説明された。

2. 病院歯科委員会（仮）規程案について

- ・委員会名称は病院歯科委員会となることが承認された。
- ・大野理事より、規程案について、資料の通り、説明がなされ、承認された。
- ・水口理事長より病院歯科に関する事項は老年歯科医学において重要であり、適切な高齢者医療を供給するという観点からも、積極的な活動をしていただきたい旨の依頼があった。

3. 地域包括ケア委員会規程案について

- ・委員会名称は「地域包括ケア委員会」となることが承認された。
- ・岩佐理事より、規程案について、資料の通り、説明がなされた。
- ・本日の理事会にて委員会設置が承認されたことを受け、委員会の規程案については、規程委員会にて審議した上で、理事会承認を受けることが確認された。
- ・上田理事より、名称変更となる渉外委員会および支部組織委員会も規程変更が必要となることから、これら 2 つの委員会規程案についても、地域包括ケア委員会の規程案と同様に、メール会議に上程させていただく旨が説明され、承認された。

4. 2022年度事業計画案について

- 水口理事長より、2022年度、日本老年歯科医学会事業計画案について、資料の通り、各関連委員会の協力のもと来年度事業を実施していく旨が説明された。同内容は2022年6月の総会にて承認を受ける予定であることが説明され、理事会にて承認された。
- 上田理事より、総務からの依頼として、事業計画に記載されている内容が来年度の学会事業となることから、それぞれの委員会から追加があれば連絡いただきたい旨が説明された。
- 戸原理事より、「リハビリテーション・栄養管理・口腔管理の協働に関する科学的エビデンスに基づくマニュアル整備」に関して、国立長寿医療研究センター(大府)のセンター内の研究費に申請(老年内科, 前田圭介先生)し、採択されたことが説明された。
- 佐藤理事より「口腔健康管理指針」の企画案の説明があり、上田理事より、まずは実態調査等を行うことを検討していただきたい旨の意見が常任理事会からあった旨補足があり、在宅歯科医療委員会にて検討していただくことが確認された。

1) 教育委員会より事業企画提案

〈企画概要〉

「口腔機能低下症」および「モニター装着と心拍監視」に関する臨床実習マニュアルの作成を予定

- 小笠原理事より、資料を用いて、事業企画案の説明(臨床実習マニュアル作成)がされた。議論の結果、「口腔機能低下」の企画については承認され、「モニター装着と心拍監視」についての企画については、本日の議論を元に再度検討していただくことが確認された。
- 水口理事長より、関連各学会が作成している指針などとの齟齬がないように確認しながら進めていただくよう依頼がなされた。
- 上田理事より、常任理事会において他学会とのすり合わせが非常に重要であること、タイトルに“高齢者の…”や“在宅歯科診療における…”などの本会が作成すべき明確な理由が読み取れる形にしてはどうか等の意見があったことが報告された。
- 小笠原理事より、「モニター装着と心拍監視」に関して、他学会が提示している指針やガイドラインがない現時点では他学会に確認していただくことは困難な面もある可能性があるが、関連学会とのすり合わせは、今後検討していく旨が説明された。

2) 在宅歯科医療委員会より事業企画提案

〈企画概要〉

第 33 回学術大会時に在宅歯科医療委員会主催のシンポジウム（機能改善を望めない高齢患者の歯科診療指針策定のためのケーススタディ）を予定しており、それをたたき台にして口腔健康管理指針を策定することを検討している。（エビデンスが少ないため、ガイドラインは困難であると考えられることから、ケーススタディを行う）

- ・佐藤理事より、資料を用いて、事業企画案の説明がされ、企画をすすめていくことが承認された
- ・水口理事長より、「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」（厚生労働省）の改定などを考慮すると、歯科のみに限定するものであるものでよいのかは再度委員会内にて検討していただきたい旨、関連学会との調整を行いながら、老年歯科医学会としての指針を出していくように検討していただきたい旨が依頼された。
- ・上田理事より、常任理事会より歯科のみで単独で指針を出すことが可能であるのか、指針を出すよりも実態調査を行い、データを出す（調査報告書の作成など）ことを検討した方が良いのではないかという意見があったことが報告された。
- ・平野理事より、「高齢者の終末期の医療およびケア」に関する日本老年医学会の「立場表明」（老年医学会）との整合性を確認しながら進めていくのが良いのではないかとの意見があった。

3) 認知症に関わる委員会の事業企画提案

〈企画概要〉

本学会として、これまでも認知症と口腔との関連についての取り組みは実施してきたが、常設の委員会という形式ではなく、様々な委員会の先生方に協力を仰ぎながらの、暫定的な活動に留まる場合があったことから、認知症に関する歯科関連の責任学会として継続的な検討および情報発信を目的として、まずは特任委員会を設置する。

- ・平野理事より、資料を用いて、認知症に関わる委員会の設立趣旨、事業企画案に関して説明がされ、承認された。

5. 2022 年度予算案について

- ・山崎理事より、資料を用いて、2022 年度の予算案が説明され、同内容は 2022 年 6 月の総会にて承認を受ける予定であることが説明され、理事会にて承認された。

6. 在宅歯科医療の基本的考え方 2022 について
 - ・佐藤理事より、資料を用いて、在宅歯科医療の基本的考え方 2022 について説明され、承認された。今後は学会ホームページにて掲載し、日本歯科医学会等に提出することも確認された。
7. 賛助会員 新規入会について
 - ・水口理事長より、村田製作所が、新規賛助会員として入会予定であることが説明され、承認された。
8. その他
 - ・特記事項なし

VI. 報告事項

1. 認定資格名の英語表記について
認定医：Board Certified Fellow of Japanese Society of Gerodontology (JSG)
専門医：Board Certified Specialist of JSG
指導医：Board Certified Supervisor of JSG
 - ・水口理事長より、常任理事会にて再度審議した結果、上記表記に決定したことが報告された。
2. 名義使用申し合わせの制定について
 - ・上田理事より、名義使用申し合わせの策定経緯が説明された上で、名義使用申し合わせが策定されたことが報告された。
 - ・総務より、出版物は、企画の段階で一度相談していただきたい旨の依頼があった。
3. 第 33 回学術大会回学術大会
 - 1) 準備状況
 - 2) 演題登録演題登録状況と査読
 - 3) 会議実施スケジュール
 - 4) 認定審査関係
 - ・小野理事（第 33 回学術大会大会長）および堀準備委員長より、資料を交えて、学術大会の準備状況や企画、予算案（現地参集開催、ハイブリッド開催ともに）の説明があり、承認された。さらに、コロナ流行状況を鑑みた上で、ハイブリッド形式での開催に変更する旨が説明され、承認された。
 - ・堀準備委員長より、ハイブリッド開催の場合には、常任理事会、理事会、社員総会、シンポジウム、口演は現地+Web のハイブリッド、審査関係（認定医、摂食

嚥下機能療法士)は現地開催のみ、一般ポスターはオンデマンドのみでの実施を検討していることが説明された。

- ・菊谷理事より、今後の学術大会の開催形式について、現状のハイブリッド(現地+オンデマンド)形式で進めていくべきかどうか、予算としては確実に赤字になるものをやり続けるのは困難であると考えられることから、新しい学会の形式を検討していく必要があるのではないかという意見があった。特に2年に一度の合同学会の際は、費用の高い会場を使用する機会が多いことなどから、今後学会開催方式の再検討が必要であると提案された。
 - ・松尾理事、河相理事より、過去の学会においてオンデマンドを実施したが非常に好評(様々な事情により学会会場に行けない会員)であった旨が説明された。
 - ・水口理事長より、今後の学会方式については今後継続的に議論を実施していくことが確認された。
 - ・上田理事より、会議および審査関係については現地開催のみで実施予定であると確認された。
 - ・小野理事より、学会抄録の査読方法に関しては、現在検討すべき事項があるため、今後の学術大会においても応用可能となるように申し送りを作成している旨が説明された。
 - ・事務局より、以下の内容については、大会校サイドと各担当理事(関連委員会委員長)との間で適宜相談していただくように依頼があった。
 - ・支部長会の開催方式：支部・地域保健医療福祉委員会，平野理事
 - ・課題口演，優秀ポスター：表彰委員会，米山理事
(発表者，審査員は現地参集予定)
 - ・会員への周知：広報委員会，河相理事
(座長，演者は現地参集予定)
 - ・総会の開催方式：総務担当，上田理事
4. 口腔機能低下症とオーラルフレイルに関するワークショップ実施報告
- ・池邊理事より、口腔機能低下症とオーラルフレイルに関するワークショップ実施報告がなされた。今後の予定として、3月末に報告書の完成、完成した報告書は学会ホームページに掲載、来年度の学術大会にてシンポジウムを実施した後、老年歯科医学に掲載を予定していることが説明された。
5. 日本医学会連合 領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けWG報告
- ・池邊理事より、資料を用いて、フレイル・ロコモ対策の推進に向けたWGの報告がなされた。

6. 令和3年度老人保健健康増進等事業 進捗状況

- ・渡邊理事より、老年保健健康増進等事業の進捗状況について、報告書の作成が完了している旨が報告され、今後も継続的に実施していきたい旨が報告された。

7. 令和3・4年度 日本歯科医学会プロジェクト研究 進捗状況

- ・大野理事より、日本歯科医学会プロジェクト研究の進捗について、3つのプロジェクトを進行している旨、3月末に中間報告が行われるため報告書を作成していることが、報告された。

8. 「老年歯科医学用語辞典」

1) 第2版 PDF化について

- ・大神理事より、第2版を学会ホームページ掲載説明がなされ、一般に対しても公開することで承認がなされた。

- ・事務局より、予算の執行を年度内に実施の確認がなされ、承認された。

2) 第3版見積書(改)

- ・第3版改訂状況に関して、用語増加に伴い用語辞典ページ数(10~20ページ)が増加する予定であることが説明され、必要な予算について資料を用いて、説明がなされ、承認された。
- ・事務局より、ページ数増の関係から、用語辞典積立金を超過してしまうが、今年度の学会として単年度黒字が800万円程度あることから、可能であれば今年度中に追加積立(具体的な金額は財務と今後相談)し、予算を確保しておきたい旨が依頼され、理事長、財務委員会、学術用語委員会に一任することが承認された。
- ・佐藤理事より第3版のPDFはどのタイミング公開されるか確認され、大神理事より第4版出版の少し前で検討している旨が説明され、意見を踏まえて早めに公開することも検討する旨の回答があった。
- ・渡邊理事より学術用語集予算として年度予算の1/10を占めているが、学会サービスとしての冊子にして今後も継続して配る必要があるのかどうかという意見があった、デジタル化した場合には、適宜修正なども容易となることから、どこかのタイミングでデジタル化する必要があるのではないかという意見があり、今後も継続して検討していくことが確認された。大神理事より、学術用語委員会において第4巻のデジタル出版のみも選択肢として検討中である旨の補足があった。

9. 日本歯科医学会報告

- ・水口理事長より、米山理事が日本歯科医学会会長賞を受賞された旨が報告され、米山理事より、ご挨拶をいただいた。

10. 日本老年学会

- 1) 櫻井 薫 先生 名誉会員へ
- 2) 第 33 回日本老年学会総会
- 3) IAGG2023
- 4) その他

- ・水口理事長より、資料を用いて、日本老年学会、IAGG2022、ECG に関して報告がなされた。
- ・小野理事より IAGG のスポンサー集め (2022 年 9 月までに行う必要がある) に老年歯科医学会として協力が必要となる可能性があるため、今後相談させていただきたい旨が報告された。
- ・松尾理事より、IAGG2023 におけるシンポジウムの選定について、各学会からの提案を受け、選抜されること、本学会からも提案していることが報告され、選出された場合には、演者などを検討していく必要があることが報告された。また、求められている負担金額に関しては非常に高額であるため、スポンサー探しなども難航すると考えられることから、日本老年学会理事長の荒井秀典先生と相談の上、すすめていく必要があることが報告された。
- ・菊谷理事より、老年学会の場合にはスポンサー料は老年学会にすべて吸い上げられる形となっており、コロナ禍において企業が展示などに対するメリットを感じにくくなっている背景を考えると、シンポジウムなどをスポンサードシンポジウム化して、老年歯科医学会にスポンサー料が入る形 (COI については要検討ではあるが) にしなければ、歯科の企業などが参加しにくくなるのではとの意見があった。
- ・羽村副理事長より、IAGG の予算規模により各学会が負担する割合が決まる事になっているため、予算規模を確認することが必要であるとの意見があった。

11. その他

1) 役員名簿の「老年歯科医学」掲載の中止

- ・上田理事より、役員名簿に関しては、今後「老年歯科医学」への掲載は中止することとなったと報告された。
- ・佐藤理事より、過去の役員一覧をアーカイブすることが提案され、検討することとなった。

VII. その他

1. 会員状況

2. 月次収支報告

- ・上田理事より資料により説明があった。

3. 今後の会議予定

- ・上田理事より、資料を用いて、今後の会議予定について以下の通り、報告された。
- ・実質的な協議が可能な常任理事会は4月12日に開催されるため、常任理事会にて上程すべき内容に関しては、4月12日の常任理事会前に事務局まで連絡していただくように依頼があった。
- ・現状では、学術大会時の理事会、社員総会については、対面での実施予定であること、表彰式は社員総会時および閉会式にて実施する予定であることが確認された。

VIII. ディスカッション

- ・羽村副理事より、オンデマンドの活用に関する提案として、発表を録画（学会が録画する）しておけば、JSG プラットホームがあるので、そちらを利用したら学術大会自体がオンデマンドとできる旨が説明され、今後検討していくことが確認された。
- ・山根源之監事、山根瞳名誉会員、より御挨拶、御意見をいただいた。
- ・上田理事より、6月に引き継ぎがあるため、その準備も進めていただくように依頼があった。
- ・事務局より、様々なツールを使用して逐次議論を進めていただきたいとの依頼があった。

IX. 閉会の辞

片倉副理事長より、今後の学会運営のあり方やアフターコロナにおける適切な学会のあり方を継続的に検討していくことの提案があったとともに、活発な議論への御礼と閉会の辞があった